森とせせらぎネットワークニュース
第33号
発行者 平井資嘉寿
編集者 稲本文雄
遠藤正久
発行日26年7月10日

第6回 森とせせらぎシンポジウム

松本浩次郎

江川せせらぎ遊歩道を、より快適に

【せせらぎ遊歩道】の今は

【せせらぎ遊歩道】の春から夏は美しく、アジサイが咲き、鴨の親子がせせらぎを泳ぐ。夏にはサルスベリの紅花が青空に映える。こういう【せせらぎ】の美観は、周辺住民の毎日の努力、周辺十町会の管理運営協議会や愛護会の皆さんと、川崎市公園管理事務所の努力で維持されている。私たち【森とせせらぎネット】も遊歩道を、“より快適にする”ため、皆さんの声を集め、問題点を調べ、“シンポジウム”を開くなどで、手助けしてきた。夜間照明や子供たちの遊具改善、散歩道の交通改善、水際木柵の一部改修、土壌や植木の補充など、目に見えて向上してきた。

【シンポジウム】の中身は

第6回森とせせらぎシンポジウムが、六月二十二日午後、井田神社で開かれた。パネラーは川崎市から「建設緑政局みどりの共同推進課課長・古屋 栄氏」「上下水道局下水道部管路課課長・山岸和則氏」と他一名、森とせせらぎネットから「広報部稲本文雄氏」、コーデネーターをネットの松本浩次郎が勤めた。平井代表の挨拶の後、三人のパネラーが ①「遊歩道の現状と課題」 ②「せせらぎの現状と課題」 ③「横須賀河川の見学とその適応」について述べた。①は樹木の剪定、土壌や樹木の追加などを実施し、要望の「藤棚整備」も行う。②水路清掃、干し上げで藻類抑制、木柵一部改修、バイパス管の設置など、七項目の改善を行うと、前向きな改善が報告された。③横須賀河川の「ＥＭ液」見学は、やや期待外れで、“悪臭改善”はされたが、ＥＭ液の藻への効果は不明、水質データも示されなかった、などが報告された。

井田神社内集会場

これからの課題は

その後の質疑は“せせらぎの藻”に集中した。せせらぎを毎日のように巡回清掃している明津の照山さんから“今年は藻が少ない、今は臭わない”と体験が報告され、ＥＭ液の吉田さんと副代表の杉本さんから「流水でのＥＭ液効果の限界」が示唆され、河野さんからは水質など「正確なデータ」の追求が指摘され、川崎市から正式のデータを入手すること、「横浜のＥＭ液効果河川の見学」を引き続き進めることになった。

参加者が十名余と少なく、主催したネットから七名、参加者十余名と少ない集まりだったが、今後につながるシンポジウムではなかったろうか？

横須賀「川間川」見学会

ＥＭの役割を見る

田辺勝義

江川のせせらぎ遊歩道は、余裕のある空間に緑と水があり、魚や鳥も生息しているなど、街中の風景としては上等である。しかし、川底に生える汚い藻、臭いはいただけない。これはいはするわ、時にはそれが汚物となって流れて行く。これは何とかしたかった。

そこにＥＭ液の話があり、汚い藻の問題が解決できるのではと思った。等々力緑地の池や登戸近くの川、小学校のプールも見に行ったが、決定的ではなかった。そこで流水でそれを使用している横須賀市の見学をしようということになった。

５月１６日に３台の車に分乗して横須賀に向かった。１時間半ほどで到着し、市役所で説明を受けた。市の職員は、ＥＭ液を使用した成果について、悪臭は無くなったと言明したが、ヘドロをなくすとか汚い藻の発生を抑えるなどの点ではわからないと繰り返すのみだった。

横須賀市職員による事前説明会

その後、ＥＭ液を作っている倉庫を見学し、ＥＭを使用している河川を見た。上流の水は綺麗であったが、底には緑の苔の様なものが見られた。使うときれいな藻になるとＹ氏は言うが本当の所が判らない。河口では臭いはなかったが、水は澄んではいなかった。

汚い藻ではなく、緑の藻ならいいのか、さらに課題が出て来て、これから横浜の川を見学しようということになった。

EM一次培養機械と一次培養液

～見学者の声～

見学の道すがら同行者が話していた事は

・ＥＭ液三六トン撒いてるってェ（その量が）想像つかないねェ

・横須賀市では川の悪臭対策に百万円も掛けてやっているんだねェ

・水質調査だけで何もデーターが無いって本当なの

・水は綺麗だけど、魚は全然いないねェ

【河口付近では】

・思っていたほど綺麗な川じゃないなァ

・でも魚が結構沢山いるなァ

・ミンナ（七河川）この湾へ流れ込んでるんだねェ

などなど、感動は今ひとつ

ヘドロと悪臭との基礎知識

吉田賢治

流れの遅い汚れた川は、下流に行くに従って水の中に溶け込んでいる酸素の量が減少して来ます。水の中に溶け込んで居るエサの量が多い程この現象が強く現れる為、酸素が不足した状態に成ります。この時、好気性微生物による分解から嫌気性微生物による分解が始まります。これを発酵分解といいますが自然界で起きる発酵分解は、有害微生物による有害発酵分解です。その為エサを分解する過程で有害物である硫化水素（卵が腐った臭い）やアンモニア、メタン、に変えながらヘドロ化して来ます。この様にエサである有機物が悪臭を放つ有害物に成った状態をヘドロと表現しています。中流から下流箇所がこの状態です。

一方ＥＭ（有用微生物）が行うのは有用発酵です。例えば、ヨーグルトの中に胡瓜を入れてみてください。良い香りの美味しい胡瓜漬けが出来ますね。ＥＭの仲間は皆さんが日常食している安全な微生物達です。パンやビール、ワインを造る酵母、味噌・醤油を作る麹、納豆を作る納豆菌、お酢を作る酢酸菌もＥＭの仲間であり、有害物質を有用物に変えてくれる光合成細菌もいます。ですから、有害物である硫化水素やアンモニア、メタンを食べ、有用物のアミノ酸やビタミン、糖分などの栄養物に変えてくれると同時に酸素を作り出してくれる微生物達なのです。その結果溶存酸素量が増え、生き物にとって住みやすい環境になるのです。ヘドロも消え、悪臭も消え住みよい環境になります。－次号へ続く－

《イベント紹介》

森とせせらぎネット及び関連団体の行事

▼森とせせらぎネットワーク
灯ろう流し　八月十六日（土）
十八時三〇分～二〇時
たらい舟　同日十四時より
管理棟～東屋周辺　雨天中止
灯ろうキット三〇〇円
予約等詳細は　田辺（勝）、竹村、　松本、稲本まで

▼ひとみ座寄席を楽しむ会
親子夏祭り　ひとみ座にて
八月二三日（土）
十二時～十六時半　入場無料
フラ、けんだま、素人落語など舞台　企画、出店有ります。

▼神庭・里山を楽しむ会
ソーメン流し　八月三日（日）
雨天中止　詳細は神庭緑地掲示板にてご確認下さい。

▼井田山／市民健康の森を育てる会　井田山クリーンデイ
八月七日（木）

▼井田囃子保存会
参加者募集中　参加無料
稽古日
毎週金曜日七時～八時半
井田神社

▼ひとみ座　乙女文楽教室
七月二八日～八月三〇日（稽古）参加無料　八月三一日発表会ひとみ座にて
乙女文楽と地域芸能交流
八月二三日（土）
九時四五分～十一時四五分
川崎交流センター

苦労した分だけ喜びが！

樋渡次男さんは、子母口北町会の理事や副会長を歴任し、体調を崩すまでの間、活躍をされました。

江川橋のせせらぎより徒歩一分位の所にお住まいの樋渡さん（八三歳）は身近に接し自らの体験話を頂きましたので紹介します。

私が、に来たの年、当時溝の口かだけで、夕のラッ三〇分に無く砂利昭和三五の地も本市化が進便利になっ

江川せせらぎ遊歩道のあゆみと共に活躍

子供たちの喜び、高齢者の健康促進に

この土地は昭和31はバスがら子母口それも朝シュ時に一本しか道でした。年からこ格的に都み交通も た。

私達の回りでよく耳にする言葉で少子化世代であり、子供さんの安全が優先でなければならない。

そこに「江川の水と緑を考える会」を経て（十三年間）江川せせらぎ遊歩道が平成十六年に完成し我が町に地域に密接した江川がよみがえりせせらぎ遊歩道の効果が、子供たちの喜び　高齢者達の健康管理の向上に着実に利用され多くの方々が四季を通じて汗を流してる姿は誇りであります。

活動を広め維持管理に一丸となっているボランティアの素晴らしい人達に感謝を申し上げます。

心静かに灯籠流し

昼間は、元気にたらい舟

行事部長　田辺勝義

「灯籠流し」は、市の北部を流れる平瀬川でボランティアをしている方から、「江川せせらぎは人の目線近くに水があるので、灯籠流しには向いている」とのアドバイスがあり、「灯籠流し」も7年目になりました。

地域の子どもたちが楽しみにしているのがとてもうれしく感じました。

「森とせせらぎ祭り」の準備と重なる面があり忙しさもあったのですが、子どもたちも含め心静かに夏の美しい宵を経験するのも意義あるだろうと始めたものでした。その気持ちは、「せせらぎ遊歩道」づくりが目標とした「老いも若きもつどい憩う　文化の香りする　住むに値する　水と緑のふるさとづくり」にも直結すると思います。

今年のアトラクションは、午後に「たらい舟」を出して子どもたちに元気に遊んでもらおうと企画しました。昼の暑さが一段落した6時から灯籠流しの始まりです。

今年は「阪神大震災」の慰霊祭にトランペットで参加した松平さん　に「東日本大震災」への慰霊も込めて吹いてもらいます。ひとみ座の乙女文楽は今年も上演されます。

そして、「地球の平和　地域の安心　祈りを込めて」の灯籠流しです。今年は灯籠が沈まない工夫もしてあり、慌てずに思いを込められます。どうぞご家族連れでおいで下さい。

尚、灯ろうキットは事前に販売しています。

健康散歩を終えて
家路に戻る樋渡さん

自分事になりますが、私が脳梗塞に二回もなり、左足が不自由で歩くのも大変であったのに遊歩道健康散歩道のお陰で元気になりました。

地産地消コーナ

申込先みは、▼田辺（七六六一〇五五〇）、▼松本（七六六一三八三三）▼竹村（七六六一五三九五）、▼稲本（七六六一四五四五）まで。

「父親の稼業を継ぎ、昨年まで目黒で仕事をしてましたが、時代の流れで自宅兼任で印刷業を」と語る好文堂・細田文好さんにお話しを伺いました。

中原区下小田中の住宅街で奥様と仲良く仕事をされ「出逢いは、アルバイト先の一目惚で」と熱く語られ、苦労も楽しさも共に頑張っている様子でした。

「当時は、新聞記者か、料理の方へと思っていましたが印刷業界も関連があるしと思い稼業を継ぎ、現場の仕事はインクの調合や手作業で苦労し又、車と同じで印刷機も入れ替ないと等」、忙しく仕事を経験された経過が顧客との信頼関係にもつながっていると思います。

さて、今回、森とせせらぎネットで灯ろう流し用のポスター印刷を地元企業でと言うことでお願いに上り、細田さんにポスター製作の思いを聞きました。

「電話とのやり取りでは無く直接、お会いし会話の中で既にイメージができました。私も以前に灯ろう流しを見て理解度もあり思い描きながら出来ました。

灯ろう流しが多くの子供さんや近隣の方々の参加につながる事を願ってます。期待します。」と、渡された完成ポスターを拝見した時に、構成配置や、さり気ない文言の言葉の心遣いが嬉しく満足し感謝してます。

取材を通して温厚な細田さんにこれからの活躍と発展を期待します。

遠藤記

旅　シベリア

シリーズ

シベリア鉄道とバイカル湖の旅

松本浩次郎

はじめに

２０１３年７月16日、20名の参加者が11時30分成田を飛び立ち、ハバロフスク空港に16時20分に着き（時差２時間）、シベリアの旅が始まった。１日目成田→ハバロフスク、２日目深夜発→車中泊（３食食堂車で）、３日目車中、４日目イルクーツク着→ブリヤート人集落、市内観光、５日目市内観光、バイカル湖畔・リストビヤンカ→船でバイカル湖畔の自然保護区（泊）６日目湖畔のハイキング、船でイルクーツクに戻り、深夜空路ハバロフスク、７日目ハバロフスク市内観光、アムール川のミニ・クルーズ（泊）８日目日本人墓地墓参、ハバロフスク空港、成田空港着。初体験、初感覚のことが多く、キリがないので、『７つのエピソード』にまとめてみた。

シベリア鉄道

シベリア鉄道は『ロシア号路線簡略図』にモスクワとウラジオストックまでの駅名と里程が示され、全長９２５９ＫＭで世界最長の鉄道である。我々が乗るハバロフスクからイルクーツク間は２８８４キロで、日本列島をほぼ縦断したようなものだ。

我々はホテルに着き、アムール川展望台を散歩した。眼下に広がるアムール川の岸辺には、水着姿の川水浴客が楽しそうに群れていた。ホテルに戻り初めてのロシア料理の夕食は、キュウリのサラダ、水餃子、鶏肉の天ぷら、牛肉の巻物、ポテトなどで、生ビールは２００ルーブル（約７００円）だった。夕食後、アムール河畔を散策した。現地通訳の李さんが「アムール国境紛争」を解説してくれた。ゴルバチョフと胡錦濤の「中ロの知恵」で解決したとの話に

この旅の続きは次号（第34号）でお楽しみください。